## ●活動を通じた地域との連携　～学生と地域をつなぐ～

ボランティア・NPO活動センターでは、地域の様々な団体や行政と連携し、地域貢献と学生の学びにつながる活動を実施しています。また、ボランティアに関心はあってもなかなか最初の一歩を踏み出せない学生やボランティア経験の少ない学生に向けて、地域とつながるきっかけとなるような様々な体験事業を学生スタッフが中心となって企画しています。学生スタッフ自身も地域団体や行政からの協力依頼に対し、スタッフ間で協議しながら積極的に関わっています。

| 企画名　タイトル | 丸屋町商店街のまちづくり活動へのボランティア協力<br>（ナカマチ土曜夜市 in 丸屋町） |
|---|---|
| 報告者名 | 河内　直之（国際文化学部　国際文化学科　２年次生） |
| 日　　時 | 2011年７月23日（土）15時00分～21時30分 |
| 場　　所 | 丸屋町商店街（大津市内） |
| イベント主催 | 丸屋町商店街振興組合 |
| 実施主体 | ボランティア・NPO活動センター（瀬田） |
| 参加人数 | 本学学生68人（学内サークル18人、学生スタッフ13人、その他の学生37人） |

### ■経緯・目的

大津市にある丸屋町商店街では、毎年７月に夜市という縁日などのイベントが開催されています。ボランティア・NPO活動センターでは、丸屋町商店街振興組合からの依頼を受け、夜市へのボランティア協力を行っています。

また、本学学生に夜市を通してボランティアの楽しみを知ってもらうことで、今後のボランティア活動へのきっかけとし、一方で地域との関係を深め、商店街・商店街の人への貢献となり、イベントを盛り上げることを目的としています。

### ■概　　要

①まち歩き

夜市のボランティア活動に参加する学生に、商店街に関心を持ってもらうことと、商店街の方と関わってもらうことを目的に、夜市開始時間前に、商店街の現在と過去の違い・歴史などのお話しをしていただきながら、商店街を案内していただきました。

②商店街の出店運営

かき氷、綿菓子、金魚すくい、プラ板づくり、サイコロゲーム、輪投げ、ミニヤード（ビリヤードの簡易版）、福島県物産販売

③学生オリジナル出店の運営

水あめ、フロート（ジュースの上にアイスをのせたもの）、ホットドッグ

④商店街内ステージでのイベント調整

学内のよさこいサークル「華舞龍」の出演調整を行い、総勢18名が出演してくださいました。

⑤デジタルフォトフレームの展示

『まるごと丸屋町！笑顔商店街　思い出写真展☆キラン』と題し、商店街の一角に展示しました。展示内容は、丸屋町商店街振興組合の加入店舗に訪問・インタビューさせていただき、店舗の写真、お店の方の写真を撮らせていただいたうえで、それらを１枚ずつのスライドにまとめ、計14枚のスライドを音楽とともに上映しました。

### ■参加者の声・得られた効果など

- 「始めてボランティアに参加したが、有意義な時間を過ごせた。ほかのボランティアにも

参加してみたい。」との声をいただき、さらにアンケートの設問のひとつである、「今後もボランティア活動に参加したいと感じますか？」の回答には、参加者計37名全員が「参加したい」との回答、目的のひとつである「ボランティアの楽しみを知ってもらい、今後のボランティア活動へのきっかけ作り」を達成できました。

- 参加者対象のアンケートの中で、夜市を楽しめた理由の上位に「地域の人とのふれあい」があったことで、目的のひとつの「地域との関係を深める」も達成できました。
- 夜市前日の7/22（金）に行った、出店の看板作り、フォトフレームの飾り付け作業や、夜市当日の活動前に行ったアイスブレイクにより、学生スタッフと参加学生の交流、参加学生同士の交流を図ることができました。
- 商店街の理事長の方から「学生ボランティアの力で夜市が大いに盛り上がった。これを機に、丸屋町商店街に足を運んでもらい、商店街に愛着を持ってもらいたい。」とのお言葉をいただきました。

■学んだこと・今後の課題

- 昨年度に引き続きまち歩きを行い、案内していただく商店街の方の人数を増やしていただき、少人数のグループで案内していただくなどの処置をとりました。参加学生により話を聞いてもらえるような空間作りに努め、ある

程度は改善されましたが、さらなる改善の余地があります。
- 企画メンバー内の夜市当日の細かい部分（準備時など）での情報共有不足があったので改善したいと思います。
- フォトフレームのスライド製作のため、商店街にインタビューに行ったことと、企画メンバー内で勉強会を行ったことにより、メンバー自身が商店街についての知識を得ることができましたが、フォトフレームの展示方法には課題が残ったため、フォトフレームの周りにそれを説明する学生を配置するなどの工夫が必要であると思います。
- 昨年度の反省をいかし、夜市の間にフリーで周りを見る役をつくり効果を見せていましたが、その人数を後１～２人増やすことで、より潤滑に出店運営ができると感じました。

| 企画名　タイトル | 丸屋町商店街のまちづくりの活動へのボランティア協力（大津祭宵宮イベント） |
|---|---|
| 報告者名 | 河内　直之（国際文化学部　国際文化学科　２年次生） |
| 日　　時 | 2011年10月８日（土）15時30分～21時30分 |
| 場　　所 | 丸屋町商店街（大津市） |
| イベント主催 | 丸屋町商店街振興組合 |
| 実施主体 | ボランティア・NPO活動センター（瀬田） |
| 参加人数 | 17人（うち、学生スタッフ８人） |

■経緯・目的

2004年度から継続して、大津市にある丸屋町商店街で開かれる夜市へのボランティア協力をさせていただいており、より密接に丸屋町商店街と関わることができないかということで、今年度から同商店街内で開かれる大津祭の宵宮イベントにボランティア協力することとなりました。

この活動を通して、本学学生に、ボランティアの楽しみを知ってもらい、今後のボランティア活動へのきっかけを作ることと観光客などへ向けた商店街のPRを手伝うことと、より一層

地域との関係を深めることを目的としています。

■概　　要

①商店街の出店運営

金魚すくい、フランクフルト、ポップコーン、わたがし、光るアクセサリー販売、ちまき販売

②デジタルフォトフレームの展示

今年度の夜市の時と同様に、商店街の一角に展示させていただきました。展示内容は、夜市時と同様の丸屋町商店街振興組合の加入店舗に訪問・インタビューさせていただいた内容をまとめたスライドと、今年度の夜市の様子をまとめたものを上映しました。

③曳山（西王母山）の説明

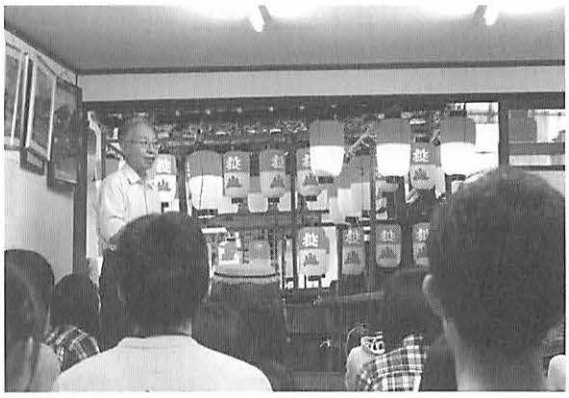
宵宮のボランティア活動に参加する学生に、商店街に関心を持ってもらうことと、商店街の方と関わってもらうことを目的に、宵宮で商店街に設置されていた曳山（西王母山）についての説明をしていただきました。

■参加者の声・得られた効果など

- 参加者対象のアンケートで「今後もボランティア活動に参加したいと感じた。」と答えた参加者は９名全員で、目的のひとつである「今後のボランティア活動へのきっかけ作り」を達成できました
- 参加者から「出店では、子供たちや地域の人とたくさんお話しできる機会がもててよかったです。」との声をいただき、目的の１つである、参加者と地域との関係を深められた部分とつながったと感じます。
- 商店街の一角に設置したフォトフレームで、商店街の店舗 PR のスライドを行ったところ、それを見たお客さんの一部が、スライドで紹介した店舗のお菓子を買いに行かれたので、フォトフレーム設置の効果もみられたと思います。

■学んだこと・今後の課題

- 宵宮ボランティア中に周りを見て回るフリーの学生スタッフを、夜市時の反省を活かし２名に増やしたところ、運営がより潤滑に進みました。
- フォトフレームのスライドについての説明を行う学生スタッフを配置したことにより、より多くの方に見てもらえたが、まだまだその人数は少ないので、設置場所やスライド内容を充実にする必要性を感じました。
- 今回の企画は、夏休みが明けて早い段階に行ったものなので、当日の準備時などの細かな部分で商店街の方との調整不足が生じたため、当日までに連絡を取る回数を増やすなどの改善策が必要です。



| 企画名　タイトル | 大津祭へのボランティア協力 |
|---|---|
| 報告者名 | 田邊　岬（社会学部　臨床福祉学科　1年次生） |
| 日　　時 | 2011年7月5日（火）12時35分～13時35分　PR・ボランティア募集 |
| | 10月2日（日）10時00分～15時00分　説明会＆山建て見学 |
| | 10月8日（土）16時00分～21時30分　宵宮 |
| | 10月9日（日）8時00分～18時00分　本祭 |
| 場　　所 | 大津市中心市街地、瀬田キャンパス野外ステージ前（※7月5日のみ） |
| 実施主体 | ボランティア・NPO活動センター（瀬田） |
| 延べ参加人数 | 本学学生77人（うち、学生スタッフ30人） |

■経緯・目的

滋賀県大津市中心市街地を中心として、毎年行われる伝統行事『大津祭』を、「一人でも多くの学生に知ってもらい、ボランティアに参加した学生に大津の文化・伝統を知り、学生が地域の一員として何ができるかを考える」ことを目的としました。

■概　　要

①説明会＆山建て見学

まちづくり大津百町館・大津祭曳山展示館を活用して説明会を開き、大津祭の歴史を学びました。説明会後、実際に曳く予定であるところの山建てを見学し、試し曳きに参加させてもらいました。

②スタンプテーリングボランティア（宵宮）

スタンプ台紙の販売、スタンプ押し、景品の交換

③曳山綱引きボランティア（本祭）

中京町曳山『源氏山』の綱引き

④警備ボランティア（本祭）

曳山巡行時の観光客の警備

⑤有料観覧席ボランティア（本祭）

観光客の誘導・受付

⑥昼食会場ボランティア（本祭）

昼食会場の設営・撤去、弁当の配布

| 概要番号 | 参加人数※（　）は学生スタッフ |
|---|---|
| ① | 30名（11名） |
| ② | 5名（5名） |
| ③ | 20名（3名） |
| ④ | 15名（4名） |
| ⑤ | 3名（3名） |
| ⑥ | 4名（4名） |

【PR、ボランティア募集】

今年度は瀬田キャンパス内で大津祭のPRとボランティア募集のキャンペーンを行いました。（特活）大津祭曳山連盟の中野理事、稲岡事務局長、湯立山責任者の千石氏を瀬田キャンパスにお招きし、大津祭の紹介やお囃子の実演をしていただくとともに、大津祭の写真展示や映像上映を実施しました。

■参加者の声・得られた効果など

瀬田キャンパスを中心にボランティア募集をしていましたが、深草キャンパスの留学生2人が参加してくれました。「楽しかった」「伝統行事に参加できた」という感想が出て、留学生にも積極的に広報していくことも必要だと思いました。

【参加した学生の声】

- 客観的にお祭りを見ることができた。
- 地域の方と触れ合うことができた。
- 普段体験できないことが経験できた。
- 大津祭の文化や歴史を知れて、良かった。

■学んだこと・今後の課題

この大津祭の企画に参加して「伝統を守り、継承していく」ことの大切さを学びました。説明会、宵宮、本祭で毎回伝統等の説明を受けましたが、毎回新たなことを教わりました。長い歴史の中で受け継がれてきた伝統を守り、学生

のような若い世代に繋げる必要性を企画メンバーはもちろん、参加学生にも感じてもらえたのではないでしょうか。

今後の課題としては、振り返り方法が挙げられると思います。当日、本祭終了後にアンケートを実施し、一部を各自保管にして、後日の振り返りの場に持参してもらうという方法をとりました。その結果、後日振り返りの出席率が低かったので、当日に振り返りをしたほうが良いと思いました。今後は効率的に参加者の意見をきく方法を考えなければいけないと思いました。

| 企画名　タイトル | くさつ子どもフェスタ2012 |
|---|---|
| 報告者名 | 南　伸之介（社会学部　社会学科　1年次生） |
| 日　　時 | 2012年1月15日（日）8時00分～16時30分 |
| 場　　所 | 草津市野村運動公園 |
| 実施主体 | ボランティア・NPO活動センター（瀬田） |
| 参加人数 | 44人（学内サークル20人、学生スタッフ15人、その他の学生9人） |

■経緯・目的

毎年実施されているイベント「くさつ子どもフェスタ」に本学学生がボランティアとして参加することで、ボランティアの楽しみを知り、普段関わることの少ない子どもと遊びを通して触れ合う機会を持ってほしいと思い実施しました。

また、参加した子ども達には、遊びを通して「楽しい」「面白い」と感じてもらえるようなブースにすることを目指しました。

■概　　要

○イベント運営での協力内容
風船アーチ作り／割り箸鉄砲（射的ゲーム）／折り紙の駒づくり／他の団体の手伝い（木工細工、ストラックアウト、ペットボトルボーリング、大凧上げ）／着ぐるみ（あおばなちゃん）を着てのPR活動

○学内サークル『そでふれ よさこいサークル華舞龍』と『マジック＆ジャグリングサークルMist』によるステージ出演

○イベント全体の後片付け

○イベント運営ボランティアの学生に向けて、活動前のアイスブレイクや活動後の振り返り

■参加者の声・得られた効果など

ボランティアとして参加した学生だけでなく、学生スタッフ自身もフェスタにそれぞれ何かしらの役割を持って活動できたと思います。また、何人かの参加学生から、「これをきっかけに他の活動にも参加してみたい」という感想があったほか、以下のような感想も得られました。

- 学生スタッフの方々がこちらを気にかけて、たくさん話しかけてくれたのが良かったです。
- たくさんの子どもや地域の方に見ていただけて、また、演舞だけではなくお客さんと触れ合う機会もあり、当サークルがとても大事にしていることなので、感謝の気持ちでいっぱいです。（華舞龍）
- 自分自身も楽しみながらマジックなどを披露できましたし、ジャグリング体験コーナーにたくさんの子どもたちが来てくれて良かったです。（Mist）
- 昼食時間が十分ではなかったです。
- 事前に活動の詳細や概要（雰囲気、規模、子どもの年齢層や人数）をもう少し詳しく知りたかったです。

・それぞれのブースの役割分担と最低限しなければいけないことといった説明をするべきだと思いました。

■学んだこと・今後の課題

本学学生に向けてボランティアを募り、学生スタッフと共に「くさつ子どもフェスタ」に参加するようになって３年目になりました。そのおかげで大きなトラブルもなく当日は活動できたと思っています。しかし、今年は他の団体の手伝いが増えてボランティアの人数がどこにどれだけ必要かわからず混乱してしまう場面もありました。

また、当日最初に参加学生と交流を深めるためにアイスブレイクを行いましたが、その後の活動では学生スタッフ同士で固まってしまい、参加学生とあまりコミュニケーションがとれませんでした。また、学生スタッフ内で各ブースの詳しい説明や、最後の振り返りの時にグループ内でまとめ役をするということを情報共有しきれていなかったので、事前に把握しておくべきだと思いました。

目標人数は達成できませんでしたが、広報を早めに行えば少しは変わっていたと思います。次年度は今年度の反省・課題を生かして、本学学生にボランティアの機会を提供することを通して、学生スタッフ自身も様々な事を学んでいきたいと思います。

| 企画名　タイトル | ボラセン秋のまちまつり |
|---|---|
| 報告者名 | 井筒　智隆（文学部　真宗学科　３年次生） |
| 日　　時 | 説明会：2011年11月８日（火）17：30～18：30<br>さんせん奨学会の高校生への説明会：11月18日（金）18：00～19：00<br>体験①《西部ふれあいプラザ》11月23日（水）８：20～16：20<br>体験②《ふかくさ100円商店街》26日（土）９：00～15：30<br>ふりかえり：12月６日（火）17：30～19：00 |
| 場　　所 | （11／８）21号館402教室、（11／18）金井病院、（11／23）京都競馬場みどりの広場、（11／26）本町通（藤森神社付近～第１軍道付近及びその周辺）、（12／６）21号館403教室 |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター（深草） |
| 参加人数 | 32人（うち学生スタッフ23人） |

■経緯・目的

ボランティアに参加したいと考えている人、後期から何か始めたいと考えている人に、ボランティアに参加の機会を提供するために、この企画を実施しました。

春のボランティア入門講座で、参加学生から地域に関わるボランティアをしたいという希望を聞いたので、今回は、地域に関わるボランティアに絞り、ボランティア体験講座を企画しました。

■概　　要

●説明会（この企画に応募してくれた人向け）
・ボランティアとは何か？（ミニ講義）
・体験先についての説明
●金井病院（さんせん奨学会の高校生）
・西部ふれあいプラザの活動紹介及び参加呼びかけ
・ボランティアとは何か？（ミニ講義）
●伏見西部ふれあいプラザ
リユース食器の回収、ごみの分別、ステージ

のお手伝い、来場者・自転車・バイク等の誘導
●ふかくさ100円商店街
事務所前など主要箇所での準備・設営・撤収作業とエコまちステーションのお手伝い、伏み～るかるたのお手伝い、100円商店街実施範囲内におけるゴミ収集、案内係り（場所やプログラム案内）、東日本大震災復興支援募金の呼びかけ、アンケート協力の声掛け等

※今回のプログラムを実施するにあたり、深草支所の方や深草100円商店街実行委員会の大山さんと事前打ち合わせの時間を持ちました。また、本町通を事前にフィールドワークも行いました。

■参加者の声・得られた効果など
・普段触れあえない高校生と交流できた
・小さい子供たちと遊べた
・地域の人と関われた
・今度は、自分たちが何か出店してみたい
などの声をいただきました。普段関われない世代の人たちと関われたのは、とても良かったようです。なによりまた参加したいと考えてくれた人が多くいたので、今後もこのような企画を行っていきたいと思っています。

■学んだこと・今後の課題
地域イベント参加に重きを置くのか、ボランティアが初めての人が参加しやすいものにするのか、ポイントを一つに絞るべきでした。後者を優先した場合分野に凝る必要がなく、前者に重きを置く場合ボランティア内容や参加時の呼びかけの準備はもっと必要で、早い時期に行われるのが望ましいと思いました。

初めての試みでいろいろな部分で分からないことがあり、自分達が想像したより、多くの時間を費し、思ったようにいかないことが多かったです。当日も予期せぬ出来事が多く対応に追われてしまい事前準備をもう少し行っておけば良かったと思いました。
今後は、地域と学生、センターがどのように関わるのかを考え、少しでも多くの学生が地域に関われるようなイベントなどを行っていきたいです。

| 企画名　タイトル | 伏見区野宿者支援プロジェクト |
|---|---|
| 報告者名 | 竹村　光世（深草キャンパス　コーディネーター） |
| 日　　時 | 2011年４月21・22日、５月25・26日、６月29・30日、７月21日（20日実施予定であったが、暴風雨のため21日に１日で実施）、８月26日（学生の夏期休暇中のため１日で実施）、９月28・29日、10月19・20日、11月21・24日、12月16日、2012年１月18日、２月21日、３月23日<br>●６月16日　12：30～13：00　活動説明会を実施 |
| 活動時間 | 15：30～19：00で実施（その時によって多少の前後あり） |
| 活動場所 | 京都市伏見区の東高瀬川・西高瀬川・山科川周辺 |
| 参加人数 | 101人（学生46人、教員１人、JIPPO関係者36人、センター職員18人） |
| 実施主体 | （特活）JIPPO／ボランティア・NPO活動センター |

■経緯・目的
2008年度末にボランティア・NPO活動センターとも関係の深い（特活）JIPPOの専務理事であり、元龍大教授である中村尚司先生から、「東西高瀬川および山科川の橋の下などで生活している野宿者を支援する試みをJIPPOで行

いたいので協力をして欲しい。」との依頼が寄せられました。実際に、JIPPOスタッフとセンタースタッフ、学生スタッフの有志で河川を歩き、調査してみたところ、支援が必要だと確信し、'09年春より、野宿者の生活支援を目的にJIPPOと協力して伏見区野宿者支援プロジェクトを本格的に開始し、今年度も引き続き活動しています。

また、この活動を通じて、参加学生に社会の問題や自分自身の偏見に気づき、自分自身の問題として考え、行動できるようになるきっかけになることも目的とし、学生に対し広く参加を呼びかけています。

**■概　　要**

月に1回ずつ3河川（東高瀬川・西高瀬川・山科川）の周辺に居住している野宿者に食料などの支援物資を持って訪問し、世間話をしながら健康状態や困っていることなどについて聞き取りを行い、必要に応じて情報提供や行政への働きかけを行いました。

また、毎回参加者の変更があるため、顔合わせと初参加の学生には簡単な活動に対する説明を行った後、支援物資の配布準備を行い、深草キャンパスを出発しました。活動終了後は毎回、JIPPOのスタッフを交えたふりかえりと、参加学生とコーディネーターでふりかえりを行い、活動を通じて得た気づきや疑問などを共有しています。

訪問メンバーは、JIPPOスタッフ、本学学生、本学教員、センタースタッフで実施しました。

学生への呼びかけは、主に募集説明会やHP、来室時や別事業の参加者への案内等を通して行いました。

★NPO法人JIPPOとの役割分担は以下の通り

| JIPPO | ボランティア・NPO活動センター |
|---|---|
| • 訪問の際の車の手配及び運転<br>• 支援物資購入のための資金提供<br>• 入浴券の購入<br>• 行政機関との対応 | • 支援物資の購入（会計報告含む）<br>• 支援物資の管理（入浴券他、支援物資全般の管理）<br>• 支援物資の配布準備<br>• 広報活動（ボランティアの募集及び活動報告） |
| 報告書の作成やマスコミ対応などについては、両組織が共同で実施しています。 | |

**■参加者の声・得られた効果など**

• はじめて野宿者の方と話してみて、明るく穏やかな方々で、自分の勝手な偏見に気がつきました。

• 飼い犬や猫のことが気がかりで生活保護受給に踏み切ることができない方のことを知り、もう少し制度の部分で一人一人の人生、生き方を大切にできるようなシステムができないのかと思いました。
• 中学生が家の毛布を川に捨ててしまったり、飼っていたウサギに乱暴したりと悪質ないたずらをしているということを耳にして、もっと学校でも野宿者のことを学ぶ必要があるのではと感じました。
• 川沿いが自分の生活圏内だったので、自分が生活しているところと隣りあわせで野宿者の方々も暮らしているのだと強く意識し、そのギャップも強く感じた。等

**■コーディネーター所感**

この活動が始まって3年目になり、野宿者の皆さんからもこのプロジェクトを認識されるようになって、コミュニケーションも密になったように感じます。

この間、さまざまな事情により3河川周辺の野宿者の方は減りました。それぞれの抱える問題も深刻化しており、何かあったときの連絡先のひとつになることができればと思っています。